

植田地域ビジョン会議 通信

第1号

この通信は、地域ビジョン会議の内容について地域の皆さんにご報告するとともに、地域の現状や課題、将来像について共有していただくために発行いたします。

地域ビジョン会議の目的

本市においても、今後、人口が減少に転じることが予測され、地域コミュニティの活性化や効率的な行政運営などなど諸課題への対策が求められています。

これら課題の解決には、行政が市民の意向や地域の実情を的確に把握し、市政への反映に努めることが重要です。

このようななか、市内各地域において、地域の代表者等で構成する『ビジョン会議』を設置し、議論を深めてもらう中、それぞれの特性を踏まえた「地域まちづくりビジョン」としてご提言いただきます。

第1回地域ビジョン会議

- 平成 29 年 6 月 7 日
15:30~17:30
- 植田市民行政センター
2 階 会議室



開会

- 一、顧問紹介
- 二、まちづくりビジョン策定の進め方について
- 三、議事
 - 1 大分市総合計画について
 - 2 地域の将来人口について（大分市人口ビジョンより）
 - 3 市民との協働による地域コミュニティの活性化
 - ①地域まちづくり活性化事業の取り組み
 - ②市民協働の取り組み
 - 4 地域の現状について（各種資料の説明）
 - 5 意見交換
- 四、その他

閉会

事務局より資料の説明

事務局より今後、地域まちづくりビジョンを策定するにあたり参考となる大分市総合計画や地域の将来人口、地域コミュニティの活性化等について説明を行いました。

◇総合計画

大分市総合計画は、福祉や環境、商工業など、各個別計画の最上位に位置する計画であり、大分市の行政運営はすべてこの総合計画に沿って進められています。

本計画では、大分市がめざすまちの姿（都市像）として「笑顔が輝き夢と魅力あふれる未来創造都市」を掲げ、その将来像の実現に向け①「健やかでいきいきと暮らせるあたたかさあふれるまちづくり」、②「豊かな心とたくましく生きる力をはぐくむまちづくり」、③「安全・安心を身近に実感できるまちづくり」④「にぎわいと活力あふれる豊かなまちづくり」、⑤「将来にわたって持続可能な魅力あふれる街づくり」、⑥「自然と共生する潤い豊かなまちづくり」の6つの基本的な政策に沿った各種施策を展開しています。

◇人口推移

植田地域は、本市の人口の約 18.3%を占めていますが、平成52年には約 16.4%減少すると推測されており、本市全体と比較しても人口の減少率が高くなっています。

地域は、高度経済成長期に数多くの団地が造成されており、このような団地は戸建住宅が多いという特性上、住民の入れ替わりが乏しいため、若い世代の流入が少なく、高齢化が進むことで他の地域より急速に人口減少が進んでいくものと推測されます。また、生産年齢人口・年少人口が減少していますが、平成37年以降は高齢人口についても減少に転じていく見込みとなっており、すべての年齢区分で人口減少が進んでいく、本格的な人口減少社会に入っていくと推測されています。

◇植田地域の現状について（各種データ）

植田地域の開発団地（面積が5ha以上）は、他地域に比べ非常に多いことがわかります。大分市全体の約半数（34団地）が植田地域の住宅団地ですが、昭和40年代～昭和50年代の間に開発された団地がそのうちの半数以上（24団地）を占めており、完成戸数が1,000を超える大規模団地も6か所含まれています。植田地域の将来像を考えるうえで、このような開発団地の課題解決は必要なものと考えられます。



意見交換

それぞれ委員皆様から自分の地域が強く優れた部分、弱い又は苦手な部分、チャンスとなる要因や地域を脅かす要因などの視点で、委員の皆様から多くのご意見をいただきました



・現在、高齢者が住んでいる住宅をどうするかということを考えなければいけない。ひとりになったら有料老人ホームにはいる等といったライフスタイルだけでは解決できないと思います。高齢者と児童など様々な場で世代間が交流していく機会をつくっていくためにも女性の社会活動への参加を促していくことが必要だと思います。



・農村地域の問題。
・造成から40年50年経過した団地の問題。
・他にも区画整理された地域の中にも1kの部屋に高齢者が入居している状況など様々な問題があります。そういった対策も考えながら『植田に住みたい』という人が増えていくようなまちづくりを考えていかなければならないのではと思います。



・現在の耐久基準を満たしていない住宅について、「震度5、6が今後来た時に危険です」といったお知らせをできないでしょうか。

生命に関わることなので耐震基準を満たした住宅を整備していくことが必要だと思います。

・インターネットを使えば解決する課題があると言われてもお年寄りはずっとパソコンを使うことが難しい。

そういったお年寄りに対する対策ということも必要ではないかと感じました。



・団地が開発された時はスーパーがありました。現在はなくなってしまいました。例えば魚や肉、野菜などの生鮮食品を店舗が協力して配達するような仕組みがつかれないでしょうか。配達する曜日や注文受付の期限（何日前の何時まで）をきめて実施できればとかんじました。



・水田の保全が最近は大変厳しい。耕作放棄地が増えたことによる害虫の発生など周辺の田んぼへの影響もある。

農地の保全を行うためのも若い世代の兼業農家が育つ取り組みが必要だと思います。

・植田地区の災害発生時の最大のリスクは何か市の考えを教えて欲しい。

